

【市長定例記者会見資料】  
令和8年1月21日  
子ども・未来部 子ども育成課（担当：藤田）  
直通：559-5046 内線：2610  
総合政策部 広報広聴課（担当：川崎）  
直通：559-5040 内線：2250

## 令和7年度 三田市高校生議会×「こんにちは！市長です」の開催について

「三田市こども計画」（令和7年3月策定）に基づき、子ども・若者が意見表明する機会として位置付け、高校生が提案を作成する過程で政策の立案プロセスや物事を多角的に考える経験を積み、まちづくりに関する学びや新たな視点を得ることを目的として、「三田市高校生議会」を開催します。また、高校生議会終了後には「こんにちは！市長です」を開催し、市長と高校生議員がより率直に意見交換します。

### 1 高校生議会

#### (1) 開催概要

##### ① 日時

令和8年2月1日（日）13時～15時30分

##### ② 会場

三田市議会議場（三田市役所本庁舎6階）

##### ③ 参加者

市内8高等学校より22名（高校生議員、議長役を兼ねます）が参加します。

※ 高校代表チーム（2～3名）ごとに提案を発表します。

##### ④ 議場出席者

市長、教育長、総合政策部長、財務部長、市民生活部長、産業振興部長、子ども・未来部長、健康福祉部長、都市整備部長

※ 三田市議会からは、議長と副議長にご出席いただきます。

##### ⑤ 傍聴、情報発信

当日受付（事前申込の必要はありません）

※ 当日の様子は、市公式YouTubeで後日オンデマンド配信します。

##### ⑥ その他

当日午前7時の時点で市内に警報が発表されている場合は、中止します。

#### (2) 今年度の主な変更点

##### ① 「一問一答」から「提案」へ

従来の「質問と答弁」形式ではなく、高校生がチームで作成した「提案」に対し、市長が「講評」を行う形式としました。（再質問はありません）

##### ② テーマの設定

高校生は「住み続けたい、戻ってきたいと思える“希望”のまち」をテーマとして、それぞれの提案を作成しています。

##### ③ 探究プロセスの重視

高校生議会本番に至るまでに、高校生議員、市職員との意見交換を行い、行政の現状や課題を学んだうえで、提案作成に取り組みました。（※詳しくは別紙1を参照）

### (3) 高校生議員の提案内容

別紙2「令和7年度高校生議会提案テーマ一覧」のとおり

### (4) 進行

市議会本会議に倣い、高校生議長が進行を行います。

① 提案発表（1チーム約10分）：チームごとに高校生議員による提案を発表します

② 市長の講評（1チーム約2分）：発表終了後、提案に対する市長の講評を行います

## 2 こんにちは！市長です

市長と高校生議員が自由に意見交換します。

### (1) 日 時

令和8年2月1日（日）16時～17時

### (2) 会 場

三田市議会委員会室（三田市役所本庁舎6階）

### (3) 参加者

高校生議会参加者

## 3 問い合わせ先

### (1) 「高校生議会」に関すること

三田市 子ども・未来部 子ども育成課

電話：079(559)5046 ファクス：079(563)3611 メール：[kodomoikusei@city.sanda.lg.jp](mailto:kodomoikusei@city.sanda.lg.jp)

### (2) 「こんにちは！市長です」に関すること

三田市 総合政策部 広報広聴課

電話：079(559)5040 ファクス：079(563)1366 メール：[kouhou\\_u@city.sanda.lg.jp](mailto:kouhou_u@city.sanda.lg.jp)



# 令和7年度 三田市高校生議会 これまでの活動を紹介！

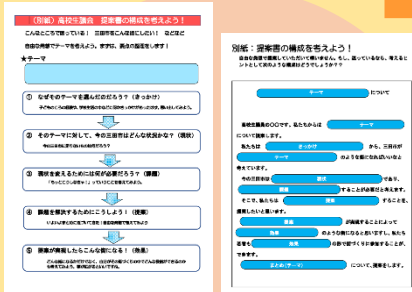
高校生  
22人

市内の高校生が、政策の立案プロセスや物事を多角的に考える経験を積み、未来の三田をつくる当事者として、どんな役割を持つことが出来る考え、学び、意見表明できる場となることを目的として三田市高校生議会を開催します。

高校生議員となる高校生22名は、2月1日(日)の本番に向けて、半年間かけて準備を進めました！

## 1 夏休み～9月 テーマ探し

各校代表1チームで、取り上げたいテーマを決めて、情報収集して考えを整理しました。  
提案の素案を作成し、第1回ワークショップに臨みます。



ワークシート(上図)を使って考えをまとめ、提案を作りあげました

## 2 9月28日ワークショップ① 説明会&高校生同士で意見交換！

高校生議員が集まり、みんなで三田市のことについて話し合いました。三田市の「イイね！」「うーん」を幅広い視点で高校生同士議論し、グループ発表をして意見を共有しました。



## 3 10月26日ワークショップ② 議場見学&職員と意見交換会！

当日の会場である議場を見学しました！

意見交換会では、高校生議員の提案内容に関する仕事をしている市の職員と情報共有し、意見交換をしました。市の職員と一緒にアイデア等を出し合い、更に提案内容をブラッシュアップさせました。



## 4 11月～1月 提案書作成、発表準備

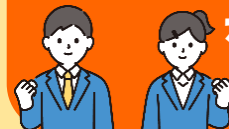
高校生議員は提案書を作成しました。



高校生議員の提案内容に対して市役所が講評を準備します。

※高校生議員が考えた提案について、担当部署と内容確認もしました。その後、本番の発表準備を始めます。

## 5 令和8年2月1日 いよいよ 高校生議会、 本番です！



提案順	学校名	学年	名前	ふりがな	テーマ
1	三田市立 ひまわり特別支援学校	2	川崎 悠大	かわさき ゆうだい	好きな時、好きな所へ行ける三田をめざして
		1	鈴木 陽菜	すずき ひな	
2	兵庫県立有馬高等学校	1	岸本 美咲	きしもと みさき	子ども食堂への前向きな理解と知名度向上について
		1	安達 市花	あだち いちか	
		1	今山 空	いまやま そら	
3	クラーク記念国際高等学校 三田キャンパス	2	株本 育海	かぶもと いくみ	マスコットキャラクターを活かして三田の魅力をもっとアピールしよう！
		2	濱西 航大	はまにし こうた	
4	兵庫県立 三田祥雲館高等学校	2	岩坪 大輔	いわつぼ だいすけ	グローバル化に対応したまちづくり
		2	内村 鷲己	うちむら じゅき	
		2	押場 悠生	おしば ゆう	
5	三田松聖高等学校	2	北山 耀	きたやま よう	相野地区とウッディタウンを結ぶ新しい交通手段
		2	榎本 隼	えのもと はやと	
		2	山野 友誠	やまの ゆうせい	
6	兵庫県立 三田西陵高等学校	2	多田羅 白瑛	たたら はくえい	三田市の特産物について
		1	梶口 真滉	かじぐち まさひろ	
		1	胸永 龍茉	むねなが りょうま	
7	三田モードビジネス 専門学校	2	杉本 翔涉	すぎもと とわ	高校生が誰でも気軽に自分らしさを発揮できるコミュニティづくりについて
		2	瀬戸 七帆	せと ななほ	
		2	奥野 心結	おくの ここな	
8	兵庫県立 北摂三田高等学校	2	大西 勇翔	おおにし ゆうと	新たな地域教育を支える、放課後学習会の活性化に関する提案
		2	西本 奏音	にしもと かなで	
		1	下村 紗英	しもむら さえ	

## 令和7年度 三田市高校生議会 提案書

【提案校】 1番 三田市立ひまわり特別支援学校  
1年 鈴木 陽菜（すずき ひな）  
2年 川崎 悠大（かわさき ゆうだい）

【担当課】 健康福祉部 障害福祉課

【講評者】 市長

【提案事項】 好きな時、好きな所に行ける三田をめざして

【提案内容】

1番 高校生議員 ひまわり特別支援学校高等部1年の鈴木 陽菜、2年の川崎 悠大です。

ひまわり特別支援学校は、富士小学校、富士中学校に併設する形で、それぞれ小学部と中学部・高等部があります。「からだの学習」などの自立活動や教科学習を、友だちや先生たちとともに毎日頑張っています。

私たちは車いすやバギーに乗って移動します。休みの日にちょっと家族と買い物に出かけようと思ったとき、気軽に外出できる環境が少ないと感じています。

今、三田市では、車の後部からスロープを出して車いすごと乗り降りできる福祉車両が駐車できるスペースが少なかったり、外出先で車いすから降りて休憩できる場所が少なかったりしています。

同じように、多目的トイレを使う時、私たち高校生の体のサイズに合うベッドが備え付けられていないこともあります。

また、車いすで移動する時の歩道の幅が狭いと、人と行き交う時にぶつかってしまう怖さを感じることもあります。

電車で移動する時にも車いすやバギーでスムーズに乗れない状況もあります。例えば、事前に何時何分の電車に乗るという連絡を駅員に伝える必要があるため、気軽に乗れるわけではありません。

車いすスペースがある施設でも、屋根がないこともあり、雨の日には出かけることが難しいです。雨風がしのげる駐車スペースがあることや成人サイズの介護ベッド付きのトイレが増えることで、行きたいときに、行きたいところへ行ける自由が生まれます。

また、車いすを自分の力で動かして、好きな所に好きなように移動できるための、十分な幅のある歩道があればうれしいです。

電車の利用については、駅のエレベーターがホームの端にあることが多く、また狭いため、十分に時間的な余裕をもって乗らないといけないことが多いです。

私たちは普段の学校生活でも、車いすやバギーに乗り続けると体が痛くなったり体調が

悪くなったりします。学校では床に敷いたマットに降りて体を横にして休むことができますが、外出先でもそのように体をリラックスさせることができる部屋や空間があると、安心して外出できます。

また、公共施設や商業施設など、私たちが日常生活でよく利用する場所が、車いすやバギーの利用者目線での見直しや改善が進められると嬉しいです。

障害のある人が家にこもらず、気軽に街に出ることができれば、三田に暮らす人々同士のつながりも豊かになり、多様性のある社会の実現に一步近づくのではないのでしょうか。これでひまわり特別支援学校の提案を終わります。ありがとうございました。

## 令和7年度 三田市高校生議会 提案書

【提案校】 2番 兵庫県立有馬高等学校  
1年 今山 空（いまやま そら）  
1年 安達 市花（あだち いちか）  
1年 岸本 美咲（きしもと みさき）

【担当課】 子ども・未来部 子ども政策課

【講評者】 市長

【提案事項】 子ども食堂への前向きな理解と知名度向上について

【提案内容】

2番 高校生議員 兵庫県立有馬高等学校1年の今山 空、安達 市花、岸本 美咲です。

私たちは、「子ども食堂への前向きな理解と知名度の向上」について提案いたします。

私たちは今年の四月から、月に一〜二回、地域の子どもの食堂の運営に参加してきました。その中で、地域の中での知名度がまだ十分ではなく、新しい参加者が増えにくい状況があると感じました。訪れる子どもたちの多くが同じ顔ぶれであることから、保護者の皆さんが子ども食堂に対して十分に前向きなイメージを持っていない可能性があると考えました。

「子ども食堂は経済的に困っている人の場所」「自分たちとは関係がない場所」といった誤解が、まだ一部で残っていると思われます。しかし実際には、子ども食堂は誰でも気軽に利用でき、子どもから大人まで交流できる、地域の温かい居場所です。この前向きなイメージが十分に伝わっていないことが、利用の広がりを妨げていると考えました。

そこで私たちは、三田市が子ども食堂の魅力や活動内容を、より積極的に発信していくことを提案します。具体的には、市の広報誌や SNS で子ども食堂の様子や参加者の声を紹介すること、小中学校を通じて家庭に案内を届けること、初めての方でも参加しやすい体験イベントを市と連携して実施することなどが考えられます。また、子育て世代に向けて紹介動画を作成し、分かりやすく前向きなイメージを届けることも効果的だと考えます。

これらの取組によって、「子ども食堂は特別な人のための場所」ではなく、「誰でも安心して参加できる地域の拠点」であるという認識が広がると期待しています。多くの家庭が気軽に利用できるようになれば、子どもたちにとって安心できる居場所づくりにつながり、地域のつながりを深める大きな一歩になると考えます。

以上の理由から、子ども食堂への前向きな理解と知名度の向上に向けた取組を提案いたします。

## 令和7年度 三田市高校生議会 提案書

【提案校】 3番 クラーク記念国際高等学校三田キャンパス  
2年 株本 育海（かぶもと いくみ）  
2年 濱西 航大（はまにし こうた）

【担当課】 産業振興部 まちのブランド観光課

【講評者】 市長

【提案事項】 マスコットキャラクターを活かして三田の魅力をもっとアピールしよう！

【提案内容】

3番 高校生議員 クラーク記念国際高等学校三田キャンパス2年の株本 育海と濱西航大です。

私たちは「マスコットキャラクターを活かして三田の魅力をもっとアピールしよう」について提案いたします。

私たちは三田市の魅力を多くの人に知ってもらいたいという想いと三田市のマスコットキャラクターの認知度が低いままではもったいないという気持ちから、三田のマスコットキャラクターを活かして、観光スポットやイベントをさらに盛り上げていくことができるのではないかと考えています。

まずはこの資料をご覧ください。これは三田市の人口推移のグラフです。見てみると2010年の三田市人口11万人をピークに徐々に人口減少が進んできており2030年には10万人を切るなど、この先も人口減少が続いていくと予想されています。

次にこの資料をご覧ください。これは三田市の居住意向の調査結果を示したグラフです。「今後も住みつづけたい」と答えた人が多い一方で、「市外に移りたい」「今のところ分からない」という意向を示した人が特に10代・20代で多くみられるということが分かります。

これらの資料から「このまちに住み続けたい、また戻りたいと思えるまち」にしていくために、何ができるかを考えていくなかで、まずは若者をターゲットにできることを探しました。それがマスコットキャラクターの活用です。

三田市のマスコットキャラクターはキッピー・ハッピー・チャッピーの3体ですが、三田市に住んでいる人でも知らない人が多く、三田市外の人ではなおさら認知度が低くなっています。またキッピーたちのイベントなどへの露出度が低い印象があります。

現に、私たちは地域のイベント、さんだサイエンスフェスティバルや高次ふるさと祭りなどにスタッフとして参加することもあります。その中でもキッピーたちが登場するなどの機会はありませんでした。このことからせっかく魅力的なキャラクターたちがいるのに十分に活かしきれていないのではないかと考えました。そこで私たちは課題解決に向け

て2つの提案をいたします。

1つ目は、三田市や企業、農業・畜産業の方々とコラボして新たなキャラクターグッズやイベントを企画し、三田市の特産品などをアピールする場面でマスコットキャラクターを活用すること。

2つ目は、高校生ボランティアを立ち上げ、私たち高校生がマスコットキャラクターに扮して観光スポットや様々なイベントに参加して盛り上げ、その様子を SNS や HP で発信すること。

この2つの提案が実現することによって、マスコットキャラクターという「顔」を活用し、三田の魅力を最大限に引き出し、高校生など若い世代が中心となって活躍できるだけでなく、イベントを通して老若男女が世代を超えて交流できるような街になると考えています。

私たち高校生など若い世代がマスコットキャラクターをきっかけに市の魅力や政策に触れることで将来まちを支える一員になれると考えました。そうすることで、このまちに住み続けたい、また戻りたいと思えるまちにしていくというテーマにもつながると思います。

## 令和7年度 三田市高校生議会 提案書

【提案校】 4番 兵庫県立三田祥雲館高等学校  
2年 岩坪 大輔（いわつぼ だいすけ）  
2年 内村 鷺己（うちむら じゅき）  
2年 押場 悠生（おしば ゆう）

【担当課】 健康福祉部 人権共生推進課

【講評者】 市長

【提案事項】 グローバル化に対応したまちづくり

【提案内容】

4番 高校生議員 兵庫県立三田祥雲館高等学校 2年の岩坪 大輔、内村 鷺己、押場 悠生です。

私たちからはグローバル化に対応したまちづくりについて提案します。近年、日本で就労・定住する外国人の数が増加しています。日本においては一層グローバル化が進むため、今後も外国人労働者が増加していくと考えられます。

実際に三田市では令和2年の外国人の人口は1,000人強だったのに対し令和7年では約1,700人と急増しています。そこで、私たちは外国人労働者に注目しました。経済・財政の観点からいえば、外国人労働者に三田市に来てもらい、三田市で働いてもらうことで住民税等の税収を少しでも上げることができると同時に、労働力を確保することができ、地方企業の活性化につながると考えたからです。しかし、三田市民の観点からいえば、外国の方も含めて住民が住みやすいまちづくりをしていくことが、ゆくゆくは三田市全体にとってより重要だと考えました。そこから、三田市が外国人の方を含めて多様な人々にとって住みやすいまちになればいいなと考えています。

今の三田市には大きく分けて2つの課題があると考えています。

一つ目は、現在三田市で行われている施策が外国の方には十分に浸透していない可能性があるということです。例えば三田市では防災訓練というイベントがあります。これは災害に対する意識が高い人には効果があると思いますが、そもそも防災意識がほとんど無い国（大災害が起きにくい国）出身の外国の方は防災という概念を持っていない可能性があり、訓練の必要性を実感していないかもしれません。このような場合には施策を行っても外国の方にはその重要性や必要性が十分には伝わっていないことがあると考えられます。そのため、施策を効果的に周知する方法が必要だと考えられます。

2つ目は、文化、習慣、言語が違うことに対して、その違いによるトラブルを減らす手立てと違いを生かす手立てが十分に取られているかということです。トラブルについては、例えば母語が異なることによる言語の壁が問題となっています。日常会話がしにくいというコミュニケーションの問題だけでなく、例えば、何かの契約を結ぶときに、契約内容を十分に理解できていないことがトラブルにつながる事例が全国においては発生しています。

医療や住居など重要性の高い場面では通訳サービス等の利用も考えられますが、日常のちょっとした場面で支援できる体制があれば良いのではないかと考えます。

一方、違いを活かす手立てについては、異なる文化圏の人たちが共に生きていくためには、相手の価値観や習慣についての十分な知識と理解が求められます。これは日本の方も外国の方も双方の文化を認め合い、受け入れることが求められます。このことから、住民が互いを尊重しあう姿勢をまずは身につけることが重要だと考えます。

これらの課題を踏まえ、私たちは次のような解決策を提案します。まず、外国の方との交流イベントをさらに増やし、より多くの地域住民と外国の方に参加してもらうことです。Friendship day in Sanda も非常に活気のある素晴らしいイベントだと考えますが、自治会単位の祭りや防災訓練なども、多文化交流のイベントと考えられます。このような交流イベントを通して自国の文化を共有することでお互いの文化、習慣の相互理解を深めることができると考えます。また、イベントを通して外国の方たちに三田市の施策や行政サービスを広めるとともに、外国の方たちも一体となった地域のつながりが広がることで、ともに支え合える社会になると考えます。

また、文化、習慣、言語の違いを解決するためには日常の相談員のような人を雇用主と三田市が連携して配置することがよいと考えました。制度化することで「困ったときにはこの人」という頼りになる存在がいることになり、外国人労働者を雇用する企業側にとっても、外国人にとっても、また地域の人々にとっても安心する仕組みとなると考えます。

以上のことを実現することで、外国の方も含めた多様化する社会において、住民がお互いを深く理解し、ともに助け合えるような共生社会を作っていくのではないかと考えます。また、私たち若者も交流イベントの運営を手伝うといった形でまちづくりに貢献することができ、世代を超えたまちづくりができると考えています。

以上より私たちはグローバル化に対応したまちづくりについて、提案させていただきます。

## 令和7年度 三田市高校生議会 提案書

【提案校】 5番 三田松聖高等学校  
2年 榎本 隼（えのもと はやと）  
2年 北山 耀（きたやま よう）  
2年 山野 友誠（やまの ゆうせい）

【担当課】 都市整備部 交通政策課

【講評者】 市長

【提案事項】 相野地区とウッディタウンを結ぶ新しい交通手段

【提案内容】

5番 高校生議員 三田松聖高等学校2年の榎本 隼、北山 耀、山野 友誠です。

私たちからは相野地区とウッディタウンを結ぶ新しい交通手段について提案します。

私たちは相野地区にある三田松聖高等学校に通っています。放課後下校ついでにウッディタウンにあるイオンに買い物に行こうと思ったときに交通手段がなく一旦三田駅を經由してイオンに行くか、あきらめて帰るしかありません。そこで相野地区からウッディタウン方面への交通手段が新たに出来ると便利だと考えました。

現状は交通手段として自家用車・バス・電車がありますが、私たち高校生や免許のない人にとってはバスの便が少ないことまたは三田を經由するという遠回りのルートをとらなければならない不便さがつきまといまいます。もっと手軽に利用できる交通手段としてデマンド交通を提案します。

デマンド交通は利用者の都合に応じて予約をして運行経路やスケジュールを調整する地域公共交通です。バスの本数を増やすには費用対効果で考えると実効性に欠けるため利用者のニーズに合わせて運行できるデマンド交通は利点が多いと思います。少子高齢化で利用客の少ない相野地区ではバスの増便よりもコスト削減できるのではないかと思います。周辺自治体において実証実験が行われています。例として尼崎市では11月から2ヶ月間デマンド交通を導入しています。三田市においてもデマンド交通の導入で交通難民が減り人の移動が活発になることで商業施設の利用者が増え経済効果に好影響をもたらすのではないかと思います。またデマンド交通導入が成功すれば周辺地域への導入にも役立つのではないかと考えています。

以上のことから三田市、相野地区とウッディタウンを結ぶデマンド交通の導入を提案します。

## 令和7年度 三田市高校生議会 提案書

【提案校】 6番 兵庫県立三田西陵高等学校  
2年 多田羅 白瑛（たたら はくえい）  
1年 梶口 真滉（かじぐち まさひろ）  
1年 胸永 龍茉（むねなが りょうま）

【担当課】 産業振興部 農業振興課

【講評者】 市長

【提案事項】 三田市の特産物について

【提案内容】

6番 高校生議員 兵庫県立三田西陵高等学校2年の多田羅 白瑛、1年の梶口 真滉、胸永 龍茉です。

私たちは三田市の特産物について提案させていただきます。

三田市に暮らす私たちにとって、地元の特産物といえば、三田牛や黒大豆、おいしいお米がすぐに浮かびます。誇らしいことであり、自慢できる「三田の顔」だと思っています。

ですが、私たち若い世代にとって、この素晴らしい「宝物」が遠い存在になってしまっている気がします。

三田牛は有名ですが、では黒大豆がどうやって作られているか、米農家さんがどんな苦勞をしているか。私たちはほとんど知りません。今や地元の食文化や農業は、テレビの中の話で、我々若者の生活とは切り離されています。消費行動も、「スーパーで買う」「外食で食べる」という一瞬で終わってしまい、そこから「地域への愛着」が育つことがありません。

このままでは、三田の誇りは、私たち世代で止まってしまいます。市外の人々も、三田の良いところを深く知ることなく通り過ぎてしまうでしょう。私たちはこの「無関心」という名の壁を、なんとかして壊したいのです。

私たちが目指したいのは「〇〇といえば三田！」と誰もが自信をもって言える、強いブランド力を持つまちです。

そして何より、私たち若い世代が、地域の食や文化に触れて「ああ、やっぱり三田ってすごいな」と心から思えるようになること。知識として知るだけでなく、自分の手で触れ、味わい、誇りを感じる。そんなまちこそが、私たちが住み続けたいと思える「希望のまち」だと考えます。

この理想を叶えるために、私たちは2つの提案をします。

まず、五感で感じる「体験」をデザインすることです。単なる収穫体験で終わらせず、農園と調理教室を組み合わせた「収穫&創作チャレンジ」のようなツアーを企画します。自分で収穫した黒大豆を、自分たちでレシピを考えて調理する。このプロセスこそが、特

産物の「物語」を参加者の心に深く刻みつけます。「楽しかった！」という思い出は、必ず「また来たい！」という愛着に変わるはずです。

そして、もう一つが「学生ブランドの立ち上げ」です。中学生や高校生が特産物を使ったオリジナルレシピや加工品を考案して販売しますが、それだけではありません。私たちはそこに、例えば「ティラノザウルスレース」のような、誰もが童心に帰って、見て、やって、楽しい参加型イベントを組み合わせます。美味しい「食」と全身で楽しむ「遊び」が融合したお祭りの空間こそが、地域と参加者の心をつなぐ特別な「物語」になると考えます。

企画から運営までを自分たちの手で成し遂げ、まちに賑わいを生み出す経験は、単なる活動を超え、「自分たちの力でまちを面白くできる」という確かな自信と、私たちの将来のキャリアに繋がる、生きた学びになるはずです。

この提案が実現すれば、子育て世代の方々は、子どもたちに誇れる食材と食育の環境に恵まれます。生産者の方々は、私たち若い世代という新しい協力者と出会えます。そして何より、私たち若者は、地域社会に貢献できる場を持ち、このまちで「生き続けたい」という強い希望を持てるようになるでしょう。

私たちは三田の素晴らしい特産物を、私たち若者の愛と柔軟なアイデアで輝かせ、次の世代へとバトンをつないでいきたいと考えます。ご清聴、ありがとうございました。

## 令和7年度 三田市高校生議会 提案書

- 【提案校】 7番 三田モードビジネス専門学校  
2年 杉本 翔渉（すぎもと とわ）  
2年 瀬戸 七帆（せと ななほ）  
2年 奥野 心結（おくの ここな）
- 【担当課】 子ども・未来部 子ども育成課  
総合政策部 移住定住推進課
- 【講評者】 市長
- 【提案事項】 高校生が誰でも気軽に自分らしさを発揮できるコミュニティづくりについて
- 【提案内容】

7番 高校生議員 三田モードビジネス専門学校2年の杉本 翔渉、瀬戸 七帆、奥野心結です。

私たちからは「高校生が誰でも気軽に自分らしさを発揮できるコミュニティづくり」について提案します。

私たちは、高校生が自分の持っている能力や自分らしさを誰でも発揮できたり、いろいろな人と気軽に交流できるコミュニティが少ないと感じました。

また、高校生が主体となってイベントを企画することによって、新たなコミュニティが生まれやすくなるきっかけにもなるのではないかと思います。三田市が「高校生が誰でも気軽に自分らしさを発揮できるコミュニティづくり」をしていくまちになればいいと考えています。

今の三田市は、高校生が誰でも気軽に使えて、楽しくあつまれるコミュニティエリアが少なく、自分の能力や自分らしさを発揮し合えるコミュニティはありません。

さらに、自分の能力や自分らしさを発揮できるコミュニティがあっても、分野によっては気軽に参加できるイベントが開催されていない場合があります。そのため、高校生が気軽に使える楽しいコミュニティエリアをつくることや、コミュニティをつくるきっかけとなるイベントを企画すること、また分野を問わず誰もが気軽に自分の能力や自分らしさを発揮できるイベントを企画することが必要だと考えます。

そこで、私たちは三田市高校生文化祭を開催することを、提案したいと思います。

三田市高校生文化祭が実現することによって、それぞれのコミュニティが気軽に活躍、アピールできたり、自分の能力や自分らしさを発揮することが誰でもできるようになると思います。また、発揮しているところをみて「こんなこともできるんだ」と興味を持ってもらったり、知ってもらえる一つのきっかけにもなると思います。高校生が自分の得意分野で力を発揮することで、その能力をさらに伸ばすことができ、高校生でも活躍できる街になると思います。

他にも、高校生の場合、私立、公立の垣根を越えた交流ができることにより、新たな交友関係やコミュニティが生まれたり、多様な価値観に触れられたり、自主的な運営で主体性や協調性、市について考えるきっかけ、進路や就職についての情報交換の手段も広がると思います。

市の場合、学生のため、ひいては子どものために働ける市という好印象が持てたり、子育てUターンに繋がったり、高校生視点の意見が聞けると思います。

地域の場合、地域の企業や団体を呼ぶことで、地域の特色を知れ、地元三田市に愛着や興味をさらに持ってもらえたり、他の世代との交流にも繋がると思います。私たち若者も自分の得意分野や自分の今持っている力を発揮する形で街づくりに参加することができま

す。

高校生が誰でも気軽に自分らしさを発揮できるコミュニティづくりのはじめの第一歩として、三田市高校生文化祭について、提案します。

## 令和7年度 三田市高校生議会 提案書

【提案校】 8番 兵庫県立北摂三田高等学校  
2年 大西 勇翔（おおにし ゆうと）  
2年 西本 奏音（にしもと かなで）  
1年 下村 紗英（しもむら さえ）

【担当課】 子ども・未来部 子ども育成課  
市民生活部 文化スポーツ課

【講評者】 市長

【提案事項】 新たな地域教育を支える、放課後学習会の活性化に関する提案

【提案内容】

8番 高校生議員 兵庫県立北摂三田高等学校2年の大西 勇翔、西本 奏音、1年の下村 紗英です。

私たちからは、三田の伝統文化を認知・体験するきっかけとなる放課後学習会について提案します。私たちが小学生の時に行われていた放課後学習会に、参加したことがあります。そこでの経験は、視野が広がり、新たな知見も得られ、楽しかったこととして記憶に残っています。このような経験から放課後学習会を地域教育として活発化させることで、よりよい教育を作り出せると感じました。また、地域での交流があまり活発でないため、世代を超えた交流が活発になるような街になればいいなど考えています。

今の三田市は、伝統文化の担い手が減少しています。また、それらについての情報が届いていないと感じており、三田の伝統文化を知り、体験するきっかけを増やすことが必要であると考えます。そこで私たちは、放課後学習会の一環として、三田の伝統文化に携わっている人に協力してもらい、伝統文化を知って体験するきっかけを作ることを提案したいと思います。

具体的には、現状の放課後学習会の内容の一つとして、三田の伝統文化の学習会や体験会を開催し、地域の子どもたちがそれらに触れる機会を作ることです。ほかにも、夏休みのラジオ体操のようにスタンプカードを作成したり、交流の一環として高校生ボランティアを募集することで、より活発化させられると考えています。

そこで市には開催に当たって場の提供や金銭的な支援、伝統文化関係者への協力の呼びかけ、広報支援を求めます。

これらが実現することによって、地域の子どもたちがより多くの経験や人とのかかわりを持つことができ、世代間の交流が活発になるような街になると思いますし、私たち若者もボランティアという形で街づくりに参加することができます。世代間の交流も深まり、地域の子どもたちが三田の伝統文化を認知・体験するきっかけが生まれる放課後学習会について提案します。